

2007年1月11日

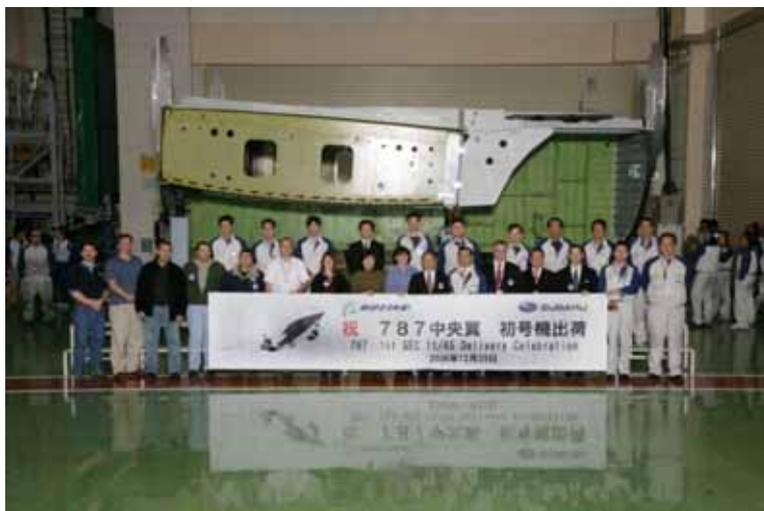
富士重工業 ボーイング787の中央翼を初出荷

富士重工業は、航空宇宙カンパニー半田工場新組立棟（愛知県半田市）において製造していた次世代旅客機ボーイング787ドリームライナーの初号機用中央翼を当初の計画通り完成させ、この1月10日に出荷した。今回の出荷品は、完成構造部位としては、米国、イタリア、日本など世界各国で展開されている787プログラムの先陣を切るものである。

中央翼は左右の主翼と胴体を結合する機体構造の心臓部であり、また、製造工程上も機体組み立ての起点となるかなめの部位である。富士重工業は、ボーイング777においてアルミ合金を主体とした中央翼を担当しているが、今回の787はボーイングの旅客機として初めて主要構造に炭素繊維複合材を適用し、本中央翼もより先進的な製品となっている。

同社は、これまで数々の複合材部品や中央翼を含む主翼の開発・製造を行ってきており、今回のプロジェクトでは、これまで培ってきた設計・製造技術、ノウハウを結集している。また、米国ボーイング社や他のパートナー、海外のサプライヤーとの世界的な連携関係を構築し、徹底した管理を行うことにより、当初計画通り今回の出荷にいたったものである。

富士重工業は、今後もボーイング787プログラムの成功へまい進していくとともに、自社の技術をさらに磨き、世界の航空機産業に確固たる地位を築くよう努めていく。



787中央翼 初号機完成記念式典